

インタビュー 「こんな人です、井上さとしさん」

【参院議員になって、これまでの五年間はどつでしたか？】

まさに小泉首相との対決の五年間でした。共産党の議席数が減りましたが、小泉悪政の下、有権者の要望に対し、「専門分野でないから知らない」というわけにはいかない。求められる分野も広く、やるべき仕事はむしろ増えています。

一期目で、参院国会対策委員長になりました。国会は、党派間の政治的、政策的な厳しい対決の場である一方、一致する問題では、共同の決議をあげるための話し合いもする独特の場です。一言一言に気を使います。

【学生時代に日本共産党に入党されたそうですね】

七七年に京都大学に入学し、同じ年に入党。当時、ロッキード事件など、金と権力を持った者による不正や、公害や買収問題など、社会の矛盾が非常に見えやすかった。それに抗議する学生運動に共感もありました。でも大学に入ると、「学生運動」を名乗りながら暴力に明け暮れる連中と、学園の自由と民主主義の回復や勉強条件の改善のためにがんばる人々との違いがはつきり分かりました。私は、学園暴力の一掃を求めて、学生自治会の役員として活動しました。

【サッカーが大好きだそうですね】

広島で小学校から大学進学までやっていました。元日本代表で解説者の金田喜稔さんは、私より一つ上。同い年には元日本代表の木村和司さんもいて、小・中学校時代には、同じ大会に参加していました。いま、国会議員のチームに入り、各国の国会議員チームとも対戦しています。

【ご家族を紹介してください】

私学で英語の教師をしている妻、小学六年の娘と、白猫のミルク。家

族は私にとって、一番大切なもの。国会中もできるだけ週末には自宅に帰るようにしていますが、一緒に夕食をとるのは、ほとんど月に一〜二回。父親らしいことができないのですが、家に帰ったときは、妻と娘が学校や友達のこと、仕事や地域のことなどを、二人いっぺんにしゃべりかけてきます。

【広島でどんな家庭で育ったのですか】

父は地方銀行員で母は専業主婦、2人の姉というサラリーマン家庭に育ちました。京都大学に進学するまで、ずっと社宅暮らしでした。父は、うそや、ごまかし、ズルが嫌いで、銀行員らしい「厳格さ」がありました。たね。しかし子どもを信頼して自由にやらせてくれました。

卒業後は、民青同盟の専従、その後、梅田勝衆院議員（当時）の地元秘書になりました。父は専従になることに猛反対。母は共産党に就職したと、人にも言えない。何でこんなことになってしまったのと、泣くばかりでした。いつかは理解してくれると思ってきましたが、当時はつらかったですね。

九六年に初めて衆議院選挙に立候補しました。父は、立場の違いを認めた上で、「やるんなら、とことんやれ」と、本番中に事務所に来てくれました。後で聞いて知りましたが、酒好きの父は、選挙事務所の近くの飲み屋に行つては、「息子をお願いします」と頼んでいたそうです。母も今年上京して会いに来てくれました。うれしかったですね。



国会で質問する 井上さとし参院議員

米側のいいなりで巨額の負担をする日本政府の追従ぶりを示すものとして怒りを広げました。

天下り、談合 井上議員は、共産党の「金権腐敗政治追及委員会」事務局長として、自民党の「金権まみれ」体質や税金の無駄遣いの実態を究明してきました。

今年三月、文部科学省発注の工事の大半を、同省OBが天下りした企業が受注している問題を取り上げました。OB会の一つである「櫛（くぬぎ）の会」の名簿を入手しての質問にはマスコミからも「よく調べたものだ」と驚きの声が上がリ、「櫛の会」は質問後、解散しました。

昨年、国土交通省発注の鋼鉄製橋梁の工事では、公正取引委員会が告発した以外の五つの整備局でも談合組織が受注を独占していたことを暴露。加盟企業から自民党への政治献金が十一年間で十六億円に上ることを示し、「国民の税金の還流であり、返還すべきだ」と迫りました。

政治資金収支報告書や公共工事の落札の記録を丹念に調べあげて、集計したうえ、独自調査で入手した資料も示して金権構図を浮き彫りにしました。佐々木憲昭衆院議員とのコンビによる自民党の金権体質の追及は、他党やマスコミからも高い評価を受けています。

広島育ちが原点：教育基本法改悪反対

今年六月に閉幕した国会で、最大の焦点の一つだった教育基本法改悪案。井上議員は、文教科科学委員会に所属し、党教育基本法改悪反対闘争本部の一員として、改悪を許さない国会論戦の先頭に立つとともに、各地でも国会報告会を行い、法案の問題点を訴え続けました。

戦争犠牲のもとに 岐阜県恵那市では、井上議員の国会報告を聞き、「わが国の政権に、歴史を塗り替えようとする動きが急速に高まっている。

もつてのほかだ」と会場から発言する元教員の男性も。

岐阜県教職員組合（岐阜教組）岐阜支部書記長の湯上澄子さん（52）は、「教育基本法は、教員など教育関係者だけの問題ではなく、全国民に関係した話なんだと知らされました。改悪に反対する署名に応じる管理職の先生もおり、大きな反応が出ています。共産党の存在は大きい。増えないといけない」と言います。

教育基本法は、日本が引き起こした侵略戦争により多くの犠牲を出したことへの反省に立ち、日本国憲法と一体につくられた法律です。井上議員は、「教育の憲法」ともいわれるこの法律に特別な思いがあります。被爆地・広島育ち。卒業した高校が爆心地のすぐ近くだった井上議員。「先輩たちは、人が人間の形で死ぬことさえも許されませんでした。多くの犠牲のもとにつくられた日本国憲法。この憲法と命が輝く日本をつくらう！」教基法改悪反対の運動は、井上議員の「原点」ともいえます。

命を輝かせて「ヒロシマの心を国政へ」。党被爆者問題対策委員として、被爆者の国家賠償や原爆症認定を求める集団訴訟の激励を続けてきました。

05年には、NPT（核不拡散条約）再検討会議が開催されたニューヨーク国連本部へ。町村外相（当時）を除き、井上さんが日本の国会議員で唯一の参加者。ニューヨーク市内をパレードし核兵器廃絶を訴えました。

「一人ひとりが、命を輝かせて生きられるように」井上議員は、難民や刑務所の受刑者など、普段ほとんど光があたりにくい問題も取り上げてきました。性同一性障害者の戸籍変更を容易にする特例法の制定にも尽力し、適用にあたっては当事者の意見を聞くことを約束させました。



と言つが、もう十分、分かりましたよ。今変えないといけない」。全国障害者問題研究会愛知支部事務局長の、佐藤さと子さん(40)は、「福祉関係の賃金はもともと低い。さらに労働条件が悪化すれば、若い職員確保ができなくなる。弱者の立場が分かる井上さんのような議員が、国会で多数をしめることが必要です」と共産党に期待を寄せます。

活動多方面に 井上議員の質問回数は五年間で、百八十回を超えます。衆参全国会議員の中でもトップクラスの数字が、論戦力の確かさを証明しています。質問準備は前日の深夜におよぶことも珍しくありません。障害者自立支援法の問題を指摘した七日の質問は、開会直前まで原稿の手直し。「共産党の議席は減つても、小泉悪政のもとでやるべき仕事は増えた」という井上議員の言葉どおり、活動は多方面にわたります。

三月には、静岡県伊豆半島での医師不足について、厚生労働省に要請。文部科学委員会でも取り上げ、各地での深刻な現状や労働基準法違反が常態化している医師の勤務実態も示し、医学部定員削減の見直しや地域医療に関する教育の充実を求めました。

国会に不可欠 井上議員は徹底した現場主義。〇四年の新潟県中越大地震災では真つ先に現地に駆けつけました。今年の豪雪被害でも、被災現場に急行し、対策を政府に申し入れました。

雪下ろし費用を所得税控除の対象に含めるよう求めた災害対策特別委員会での井上議員質問では、「緊急性がない」と答えた財務省に、「屁理屈をこねるな」と自民党席からも一喝する声が飛びました。国会に不可欠の井上議員です。

綿密な調査、マスコミも注目する論戦

「井上さんの質問は、共産党にしかできない本物の追及だと思った。

米軍再編は、国会での議席がものをいう。頑張つて再選してもらい、国会の中を変えないといけない」。米軍再編に伴い、沖縄などの米軍基地から訓練部隊の移転が予定される石川県小松市の航空自衛隊小松基地。「米軍くるな！市民連絡会」代表委員の東洋子さん(59)＝石川県小松市＝は言います。

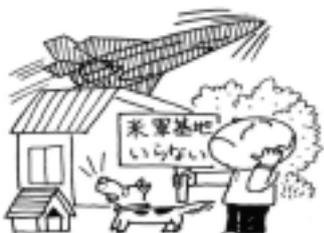
内部告発から 井上議員は二月一日、地方議会に米軍再編をめぐる反対決議をさせないよう防衛施設庁が現場責任者に指示した「圧力メール」を国会で追及。内部告発で送られてきたメールのコピーにもとづき、調査を尽くした上で取り上げたものです。

額賀防衛庁長官はじめ、「地元の理解を得るための一環」で圧力ではないと追及を逃れようとしたが、後日にととう、メールが本物だということも認めざるをえませんでした。

この質問を基地再編に関わる地元紙は「施設庁 再編で『圧力』」(沖縄タイムス)、「民意への姑息(こそく)な介入」(同社説)と、大きく報道。また、「自治体に圧力をかけるようなやり方は許されない」(神奈川新聞)、「政府は地元に『誠心誠意説明する』と言いながら、実際には自治体の自由な意思表明に圧力をかけている。絶対に許せない」(琉球新報)など各紙に井上議員の指摘が紹介されました。

民主党のガセネタに基づく質問と好対照の井上質問を東京新聞は「メール」をめぐる情報提供が国会質問に結びついた例」と書きました。

米軍住宅 井上議員は、七千億円に上る沖縄海兵隊のグアム移転費用を行革特別委員会を追及。米軍の家族住宅のために日本が負担(出融資)する一戸当たり約八千万円という金額が、これまで「思いやり予算」で建設した米軍住宅の二・五倍にもなることを明らかにしました。この数字は、本来支払い義務もないのに





日本共産党
参議院議員

こんな人です 井上さとしさん

2007年夏の参院選で、日本共産党の比例代表候補として京都、東海北陸信越10府県を駆けめぐる井上さとし参院議員（48）。当選以来5年間、小泉首相と正面对決し、日本共産党が「たしかな野党」としての役割を發揮する先頭に立ってきました。

略歴

2001年参院比例区で初当選。法務委員、憲法調査委員を歴任。現在、参院・国対委員長、文教科学委員、党中央委員、書記局員、京都大学法学部卒

【国民の願いかかげ・井上さとし参院議員の5年】

【インタビュー・こんな人です 井上さとしさん】

2006年8月発行 日本共産党東海ブロック事務所

国民の願いかかげ

井上さとし参院議員の5年

弱い者いじめの政治を追及し続けて

「小泉内閣のもと、十三兆円を超える負担が国民にかぶさってきた。特に社会的弱者の負担は大変重い。今日は、障害者福祉の問題で質問したい」。井上議員にとつて、小泉首相と最後の直接対決となった六月七日の参院決算委員会。施行から二カ月で早くも悲惨な事態が明らかになった障害者自立支援法を取り上げました。日本共産党が全国二百を超える障害者施設を対象に行つた緊急実態調査に基づき、総理に迫りました。

全国から悲鳴 「予想を上回るいろんな問題が起き、全国から悲鳴があがっています。国として大至急、利用者や施設の実態を調査し、改善すべきだ」と、最後まで追及をゆるめない井上議員。

小泉首相は、「実施から三カ月たつておらず、見直す段階ではない」としつつも、「苦情は来ている。さまざま実態を含めて調査する必要がある」と認めざるを得ませんでした。

緊急調査結果では、一割の応益負担導入で、大幅に利用者負担が増え、施設の退所やサービスの手控えが相次いでいます。また、施設への報酬も大幅に減り、運営の大本が揺らぐ状況です。

名古屋市で障害者デイサービスや小規模通所授産施設などを運営する「やまびこ福祉会」の松原伸二さん（42）は、「法律が施行され、デイサービスの利用者に請求書を発行しました。金額をみるにつけ悔しい思いです。行政が負担すべき金を利用者に押し付けています。小泉さんは『まだ三カ月』